

手稲の風と共に

発行

令和6年11月11日

北海道札幌手稲高等学校

創立50周年記念式典

～継続は力なり～

令和6年10月11日、本校創立50周年記念式典が札幌市内のカナモトホールで盛大に執り行われました。在校生・教職員・来賓・協賛会・学校関係者・保護者ら約1,300人が出席。50年の節目を祝うとともに、先人たちが紡いできた伝統を後世に引き継いでいくよう、今後の更なる発展を誓い合いました。

「生徒の活躍を前面に」を合い言葉として、オープニングの吹奏楽部・合唱部・音楽選択者による演奏をはじめ、放送局の司会、生徒会執行部・女子バレーボール部員の誘導、表彰プレゼンターなど見事に「手稲高校生」の力を発揮してくれました。圧巻は、1300人の「校歌」の大合唱。コンサートホールに50周年の祝いを確かなものとするハーモニーが美しく響き渡り、今後の一層の手稲高校の躍進を感じさせました。

3年前の「50周年準備委員会」から始まる本事業に関わって下さったすべての方に感謝とお礼を申し上げます。



手稲高校での学びと俳優への道
第16期生
戸次 重幸氏



多くの皆様のおかげで大成功！心より感謝申し上げます



快挙 放送局・全国優勝果たす！

7月25日(木) NHK全国高校放送コンテストのラジオドキュメント部門において、放送局が制作した「蓋をあける」が見事全国優勝を果たしました。オーバードーズをテーマに高校生が直面するシリアスな問題に正面から向き合い、当事者のインタビューや生徒の声を拾い、頂点に輝くことができました。顧問の渡辺先生は「放送局では自分たちで取り組む姿勢を大切にしていきます。生徒が自主的に取り組んだことで、大人の想像を大きく超えた作品ができました。」と生徒の成長ぶりを讃えています。



教育実習生・9名・母校で実りある実践を行いました！

6月、本校の卒業生9名は、それぞれ大学が定めた2～4週間の間、母校にて「教育実習」を行いました。高校生の時とは違い、「教える」ことの楽しさ・難しさの両面を実感したようです。「学習指導案」を何度も作成し直し、「研究授業」に挑みました。実習終了後には、かけがえのない体験ができたと感想を述べていました。更なる活躍を期待しています。



家庭クラブの取組

～ カンボジア国王から感謝状を授与 ～



5月16日(木)、家庭クラブの林将広部長と新山嘉乃副部長が校長室を訪れ、カンボジア国王から届いた感謝状と写真を久保校長から代読、授与されました。家庭クラブでは、手作りマドレーヌを学校祭等で販売し、そこで得た収益を井戸の建設支援金として10年以上前から送り続けています。NPO法人の団体と連携しながら、今まで12基の井戸が建設されました。今回はルセイスロック小学校のトイレ建設に支援金が活用され、現地の子どもたちが大切に利用しているそうです。



令和6年度「手稲高校の前半」が終了しました。生徒は”懸命に”学校生活を送っています。前期を振り返って、「輝く生徒及び教育活動」の一端をご紹介します。

前期を振り返って



【入学式】



【壮行会】



【3年次主権者教育模擬選挙】



【校舎前花卉移植】



【学校祭①】



【学校祭②】



【高体連①】



【高体連②】



【夏季体育大会①】



【夏季体育大会②】



【2年次学び探究ゼミ】



【全道高P連北見大会】

学校説明会に約900名の参加者来校！

7月20日(土)学校説明会。今年度も申し込みは、すべてHPからダウンロードして必要事項を入力の上、中学生や保護者が各自本校へ申し込むという流れで実施しました。当日は猛暑の予報、急遽「服装はジャージ等自由で」という呼びかけを行い、できる限りの暑さ対策を講じて、滞りなく開催することができました。

吹奏楽部の演奏や合唱部の校歌披露、放送局の生徒が制作した学校紹介ビデオの上映をはじめ、生徒会執行部の生徒が本校の特色ある教育活動について説明しました。また、ESS部の生徒が日常の部活動の様子を紹介し、本校の卒業生で、現在大学生となっている2人がそれぞれどんな高校時代を過ごし、「今の自分が存在するか」を語ってくれました。

生徒の活躍の場面を数多く披露し、本校のPRに努めた学校説明会。最後に各部・局・同好会の活動場所において、生徒が生き生きと取り組んでいる姿を見学していただき終了しました。来年度51年目を迎える本校に、多くの生徒が受験し、新たな息吹を吹き込んでくれることを期待しています。

『生徒・保護者の声』を反映して『改善』に取り組んでいます

5月28日、PTA役員・後援会役員と本校生徒会執行部約20名が「交流会」を行いました。田中正浩後援会長より「生徒の困り感を共有し、支援・サポートする会である」という趣旨説明があり、生徒からは、事前に生徒からヒアリングしておいた学校生活に「あったらいいな」と思われる要望等が次々と出され、学校はその実現に向け、取り組んできました。

「校舎の設備」では、旧体育館のLED化で室内全体が明るくなったことをはじめ、「懸垂幕・自転車止めの設置」「生徒トイレの暖房便座」、今年度から始まった簡易クーラーの不具合解消の「分電盤修理」、各部活動から要望のあった物品購入など、PTA役員・後援会役員の後押しを受け、「50周年事業」に併せて順次進めています。



【自転車止めの設置】



【生徒会とPTA後援会役員の交流会】



【懸垂幕の設置】

令和6年度の学校生活アンケート（いじめ）・学校評価（中間）結果

本校では、年に2回「保護者・教職員対象学校評価アンケート」と年に3回「生徒対象学校生活アンケート」を実施し、それぞれの教育活動に活かし改善に努めています。これまでのところを総括してお伝えさせていただきます。

8月19日に実施しました学校評価（中間）の結果は、すでに、9月26日付け楽メにて全体集計し配信されております。全体の75%の保護者の方が回答して下さいました。改めてお礼申し上げます。皆様からいただいたアンケートは、それぞれの項目の意見・要望も含めて、各分掌（組織）で検討させていただいております。

全体を通して、概ねすべての項目において多くの方から好評価をいただいています。保護者アンケート質問22項目のうち、特に意見・要望の多かった「施設・設備等の教育環境の整備」に関しましては、優先順位をつけ、上段の「声」と重複していますので、早急に対応して進めて参ります。

そのほか、「勉強と部活動の両立」「ICTの効果的活用」「家庭学習習慣の定着」等に改善すべき数値が表れています。それぞれの担当部署で整理・分析・改善策を示し、全体共有を図り、今後の教育活動に取り組んでいきます。

学校生活アンケートでは、10月末までにすでに2回の調査を終え、いじめの有無を含めた調査後の聴き取りを大切にしています。昨今のいじめ対応は、軽微なものを含め積極的に認知し、組織的に取り組み、いじめの防止及び早期発見・早期対応に努めることが大切とされています。生徒から聴き取った「嫌な思い」の内容を確認したところ、10月は18件の報告がありました。いずれも、本人からの訴えに基づき、丁寧な対応を心がけ、関係生徒はもちろん保護者にお知らせした上で、専門家の助言等を参考に、進めて参ります。